

スポーツにおける商業主義とドーピングに関する研究

A study of commercialism in sports and Doping

1K05B217

宮武 祐希

指導教員

主査 宮内孝知先生

副査 友添秀則先生

1 研究の動機・目的・方法

選手の薬物使用問題について選手個人の問題に集約する傾向がある。果たして禁止薬物使用を選手個人の問題に集約していいのだろうかとの疑問を感じた。本研究は、薬物使用が選手を取り巻く社会的環境と強く結びついていることを明らかにするものである。特にその要因としてスポーツの商業化に注目した。文献中心にスポーツの商業化、ドーピングの歴史さらに選手を取り巻く環境を照らし合わせた。その上で禁止薬物使用が商業化と深く関係していることを明らかにし、さらに今後の対策を考察した。

2 各章の要約

第1章ではメディアとスポーツの関係について述べた。さらにその歴史において選手を取り巻く環境がどのように変化していったかについても考察した。テレビの出現、衛星テレビの普及によりスポーツは国際的な広がりを見せた。それに伴いスポーツ大会は巨大化し、スポーツ界はその運営を維持するために商業的な手法を取らざるを得なくなった。商業主義が推し進められるに従い、選手を取り巻く環境も急激に変化した。高騰する契約金やテレビ中継に合わせた競技ルールの変更などが選手の本来のリズムを乱す結果となっている。以上のように、選手を取り巻く環境は劣悪なものとなっていったことを明らかにした。この結果から、本論文では商業化による選手を取り巻く環境の劣悪化がドーピングの一要因となっているということを考察し、その改善についてどのような策をとるのがよいのか考察していった。

第2章ではドーピングの歴史について述べた。1960年代以降、テレビの普及が進みだしスポーツにおけるビジネスが確立してきた。その頃にドーピングが頻発するようになった。その後、スポーツにおける勝利が直接選手の収入に直結するようになる1970年代後半以降は薬物ドーピングのみならず血液ドーピングや尿ドーピング、中絶ドーピングなども盛んにおこなわれるようになった。60年代、70年代といったスポーツとテレビがより密接に関係し、スポーツの商業化がより鮮明になるにつれドーピングは頻発し巧妙となっていることが明らかになった。

第3章では現在の選手を取り巻く環境について述べた。商業化以後、選手が大会で得ることの出来る報酬や企業との高額のスポンサー契約など金銭面の変化について主として述べた。結果、競技成績がその収入に大きく影響を及ぼしていることが明らかになった。さらに所属するスポーツ組織について触れた。組織、チームは商業化以後その運営形態を変化させる必要に迫られ、自ら育成選手を獲得し育てていく方法へシフトしていることが明らかになった。その上でスポーツビジネスが最も発達しているアメリカスポーツ界の現状について述べた。NFLの選手の70%、NBAの選手の82%がアフリカ系アメリカ人であった。この事実から選手の育成の際にクラブが貧困層の人種をターゲットに幼い頃から安い値で契約を交わし、選手に対する社会教育を怠り「商品」としてしか教育していない可能性が明らかになった。さらに、日本の大学における選手への対応や教育状況についても考察した。その結果、日本の教育機

関においてすら選手への教育の不十分さが存在することが明らかになった。商業主義による選手年俸の高騰、さらにはスポーツ組織の選手への社会教育の不十分さが選手をドーピングへと駆り立てる要因となっている可能性が強くあることが明らかになった。

第4章では商業化がいかにスポーツの発展に寄与してきたかについて述べた。スポーツイベントの巨大化に伴う運営費の巨大化はスポーツ大会の赤字運営を大量に生み出してきた。1984年におけるロサンゼルスオリンピックの民営第1号の大会が成功裏に終わったことでスポーツのビジネス形態が確立した。商業化によってスポーツ大会の黒字運営が可能となりその発展を助けたことが明らかになった。このように商業化がスポーツの発展と拡大に大きく貢献してきた上で、特にその過程

においてメディアが大きな役割を果たしてきたことを明らかにした。

第5章ではマスメディアの本来持つ役割にふれ、今後どのようにマスメディアがスポーツと関わるべきかについて考察した。マスメディアとスポーツ界との健全な信頼関係の構築がマスメディアの本来の役割を思い出さる。そのスポーツにおける健全なジャーナリズムの実現がドーピングに歯止めをかけることができるのではないかと考えた。しかし、スポーツに政治的な思惑が及んだ時、その信頼関係は簡単に崩れ去ると考えた。結果、マスメディアに歴史的に託された「社会悪の監視」といった役割の再認識が最も重要であると考えた。これが、国家の思惑や商業化の中で頻発しているドーピングにも歯止めをかけるのではないかと結論付けた。